

檀家離れの寺 ホテルに活用

宿坊開設の記者会見で、檀家離れの状況などについて話す田村完浩住職



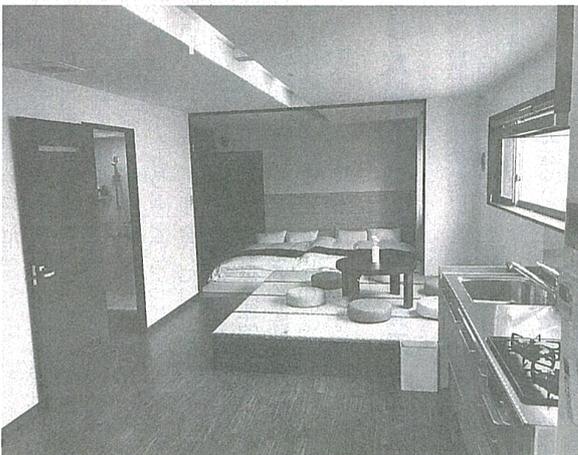
「檀家離れ」が深刻になりつつある中、正伝寺はシェアウィングの提案を受け、7月

2年に開山した正伝寺。現在、約100世帯の檀家がいる。しかし、地価高騰などでバブル経済期に郊外へ移住した檀家も多い。高齢化した檀家からは「跡取りがいない」「墓参りが難しい」などと「墓じまい」を申し出る事例が5年ほど前から出ているという。

お寺がホテルに……。400年以上の歴史を持つ「正伝寺」(港区)が、ベンチャー企業「シェアウィング」(港区)、東洋学園大(文京区)と連携し、宿坊「Temple Hotel 正伝寺」をオープンした。檀家減少で経営に影響が出ることが予想され、寺を残したいとの思いから開設。5カ国語での対応を可能にするなど、来年の東京五輪開催を控え、増加傾向にある外国人観光客の取り込みも目指している。

生き残りかけ 五輪へ訪日客獲得目指す

宿坊内にはトイレやバス、キッチンも整備されている 港区の正伝寺



25日に宿坊をオープン。2階建ての庫裏を、収容定員12人の宿泊施設に整備。部屋にはトイレやバス、キッチンが備えられている。

宿坊は無人だが、宿泊客については、運営会社が24時間、テレビ電話などで対応。日本語のほか、英語や中国語、韓国語、タイ語の計5カ国語で対応することも可能だ。

さらに正伝寺では、宿泊客を対象とした「お守りづくり」や「写経」の体験も実施している。イベント内容は今後、東洋学園大の学生とも連携して実施する。また、田村完浩住職(49)は「都会の寺はまだいい方だと思いが、少子高齢化が進む中で、今後檀家との関係だけで寺を維持するのは難しいと感じている。400年以上続いた寺を次の世代に受け継ぐためにも、宿坊はいいアイデアだ」と期待を寄せた。